巻 頭 言

臨床の現場から生まれる学びと前進

仙台市立病院院長　　渡　辺　徹　雄

このたび，仙台市立病院医学雑誌第45巻を発刊できましたことを，大変うれしく思います．本号には，医師・看護師・薬剤師による原著3編，症例報告5編，コメディカルレポート1編，計9編の論文が掲載されています．いずれも日々の臨床で生じた課題に真摯に向き合い，改善へとつなげた貴重な成果であり，当院の医療をより良くしたいという思いが強く感じられます．多忙な中，編集作業を担ってくださった刈部委員長はじめ編集委員会・査読委員の皆さま，そして投稿・指導に携わられた皆さまに，心より感謝申し上げます．

原著3編からは，当院の新たな取り組みと，多職種が専門性を発揮して取り組んだ成果が感じられます．産婦人科の「遺伝外来立ち上げの報告」では，HBOCを中心とした診療の現状と課題が整理され，遺伝医療の発展に向けた方向性が示されています．「COVID-19看護経験の質的分析」では，厳しい環境下での不安や葛藤だけでなく，経験を肯定的に捉え，学びと成長へと昇華していった看護師の姿が印象的です．さらに薬剤師が中心となった「積極的疼痛管理」では，鎮痛薬の選択基準や使用タイミングを整理し，精神科リエゾンチームや看護部と連携してプロトコル作成や教育，与薬判断の支援を行うことで，せん妄予防と看護負担軽減に貢献した点が大きな特色となっています．

症例報告5編からは，日常診療の奥深さが改めて伝わります．婦人科からは，腹腔鏡下手術後の尿膜管洞膿瘍という稀な合併症例と，小児卵巣茎捻転の卵巣温存に成功した症例が報告され，術前・術中の注意深い判断の重要性が示されました．小児科からは，FilmArrayを用いた中枢神経感染症の早期診断例と，学校検尿を契機に発見された2型糖尿病の2症例が寄せられ，健診や検査技術が果たす役割の大きさを再認識させられます．腎臓内科からは，Fanconi症候群を合併した一次性膜性腎症にリツキシマブが奏功した稀少例が示され，難治例に対する治療の可能性が広がる内容でした．

コメディカルレポート1編は，当院のチーム医療を支える薬剤科の取り組みをよく表しています．「脂肪乳剤投与速度の適正化」では，システム改修と院内周知を通じて投与速度の是正と安全使用率の向上が図られ，継続的な努力が確かな成果として結実しています．

全体を通して，本号に共通するのは「現場から生まれた知見を自ら形にし，共有しようとする姿勢」です．こうした取り組みが，更なる診療の質向上や人材育成へと広がり，当院全体の力を一層高める一助となることを願っています．